

## 日本小児科学会推奨の予防接種キャッチアップスケジュール

近年、多くの新しいワクチンが国内で接種できるようになり、小児期の予防接種スケジュールはより複雑になってきた。日本小児科学会は、2011年4月に学会の推奨する予防接種スケジュールを発表し、既に5回の改定を重ねてきた。しかしながら、標準的な接種時期を逃した場合の接種方法については、そのスケジュールに記載されていない。今回、標準的な接種時期を逃した児に対するキャッチアップスケジュールを発表する。

キャッチアップスケジュールとは、標準的な接種時期を逃した場合に、その接種の年齢制限や同じワクチンどうしの接種の最低接種期間を規定したものである。また、追記としてそれぞれのワクチンの最低年齢と最高年齢、定期接種のワクチンとして接種できる時期も併記した。

なお、このスケジュールは、それぞれのワクチンの添付文書に記載されていない事項をも含むが、接種時期を逃した子どもたちをワクチンで予防できる病気から守ることをその目的とし、医療上の必要性から検討したものである。したがって、接種の際には、本人または保護者にその目的を説明し、同意を得た上で実際の接種を行っていただきたい。



定期接種



任意接種



ワクチン	種類	1回目の最低年齢	定期接種の時期	最後の接種の最高年齢	最低の接種間隔		
					1回目と2回目	2回目と3回目	3回目と4回目
インフルエンザ菌 b 型 (ヒブ)	不活化	2 か月	2 か月-5 歳未満	5 歳未満	3 週 (最初の接種が7か月未満で、現在7-11 か月の児) 3 週 (最終投与として) (最初の接種が12か月未満で、現在1-4歳の児)	3 週 (2回目の接種が7か月未満で、現在7-11 か月の児) 7 か月 (最終投与として) (2回目の接種が12か月未満で、現在1-4歳の児)	7 か月 (最終投与として) (3回目の接種が12か月未満で、現在1-4歳の児)
肺炎球菌 (PCV7)	不活化	2 か月	2 か月-5 歳未満	10 歳未満	4 週 (最初の接種が7か月未満で、現在7-11 か月の児、または、最初の接種が12か月未満で、現在1-9歳の児) 8 週 (最終投与として) (最初の接種が1歳で、現在2-9歳の児)	4 週 (2回目の接種が7か月未満で、現在7-11 か月の児) 8 週 (最終投与として) (2回目の接種が12か月未満で、現在1-9歳の児)	8 週 (最終投与として) (3回目の接種が12か月未満で、現在、1-9歳の児)
B 型肝炎 (HBV)	不活化	出生時	—	特になし	4 週	16-20 週 (1回目より20-24 週)	—
ロタウイルス	生	6 週 (ただし、生後15 週未満)	—	1 価ワクチン (ロタリックス®) 生後24 週未満 5 価ワクチン (ロタテック®) 生後32 週未満	4 週	4 週 (5 価ワクチン ロタテック®のみ)	—
四種混合 (DPT-IPV)	不活化	3 か月	3 か月-7.5 歳	小児 (15 歳未満) (注1)	3 週 (定期接種として3-8 週)	3 週 (定期接種として3-8 週)	6 か月
三種混合 (DPT)	不活化	3 か月	3 か月-7.5 歳	特になし	3 週 (定期接種として3-8 週)	3 週 (定期接種として3-8 週)	6 か月
ポリオ	不活化	3 か月	3 か月-7.5 歳	特になし	3 週 (定期接種として3-8 週)	3 週 (定期接種として3-8 週)	6 か月
BCG	生	0 か月	12 か月まで (通常、5-8 か月) (注2)	5 歳未満 (注2)	—	—	—
麻しん、風しん (MR)	生	1 歳	1 回目は、1 歳以上2 歳未満、2 回目は5 歳から7 歳未満 (小学校入学前の1 年間)	特になし	4 週	—	—
水痘	生	1 歳	—	特になし	3 か月 (13 歳未満)、4 週 (13 歳以上) (注3)	—	—
おたふくかぜ	生	1 歳	—	特になし	4 週	—	—
日本脳炎	不活化	6 か月	予防接種スケジュール 注意事項 (注10) を参照	特になし	4 週 (定期接種として6 日以上)	4 週 (定期接種として6 日以上)	4 週 (定期接種年齢の範囲で数年開ける)
インフルエンザ	不活化	6 か月	—	特になし	4 週 (2-4 週) (13 歳以上は、1 回接種)	—	—
二種混合 (DT)	不活化	11 歳	11-13 歳未満	特になし	—	—	—
ヒトパピローマウイルス (HPV)	不活化	2 価ワクチン (サーバリックス®) 10 歳以上 4 価ワクチン (ガーダシル®) 9 歳以上	12 歳-16 歳 (小学校6 年生から高校1 年生相当)	特になし	2 価ワクチン (サーバリックス®) 1 か月 (1-2.5 か月) 4 価ワクチン (ガーダシル®) 2 か月 (1 か月以上)	2 価ワクチン (サーバリックス®) 5 か月 (①-③の間は5-12 か月) 4 価ワクチン (ガーダシル®) 4 か月 (①-③の間は6 か月)	—

注1 4種混合ワクチン添付文書によると、小児(15歳未満)が接種の対象。それ以上の年齢の接種に関しても、接種を妨げる科学的根拠はなく、接種に問題はないと考える。

注2 BCG ワクチンの接種は、特別の事情(免疫不全状態におかれる疾患)があることにより予防接種を受けることができなかつたと認められた場合は、4歳に至るまでであり、その特別の事情がなくなった日から2年を経過するまでであれば定期接種の対象となる。

(詳しくは、結核とBCG ワクチンに関するQ&A、厚生労働省ホームページを参照 [http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/bcg/](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/bcg/))

注3 4週以上の間隔があいていればよいが、13歳未満では、3か月以上の接種間隔を推奨する。(2013年度版米国CDCのキャッチアップスケジュールを参照とした。  
<http://www.cdc.gov/vaccines/schedules/hcp/imz/catchup.html>)